



## 第4回合同調整委員会が行われました！

6月13日、第四回目となるプロジェクト合同調整委員会（Joint Coordination Committee）が開催されました。



合同調整委員会の様子

合同調整委員会とは、半年に一回、労働・社会保障省、大蔵省、社会保険庁や日本大使館、JICA モンゴル事務所から関係者が集まり、プロジェクトの進捗状況を確認したり、今後の活動の予定について話し合うものです。



合同調整委員会参加者

今回は、プロジェクトが開始されて以降、社会保険庁や各社会保険事務所によりどのようなお客様サービスおよび実務改善が行われたかについて、社会保険庁のゲレルマー課長が発表を行いました。

年金の裁定、変更、給付の流れを工夫してより早いサービスの提供を行ったことや、社会保険の手続きや情報を取得するオンラインサービスの拡充に努めていることが特に印象的でした。よりよい社会保険サービスを国民に提供するため、さまざまな業務改善・広報活動が行われているこ



説明を聞いている様子

と、その活動にプロジェクトも協力できていることに大変嬉しく思います。

また、今回は山下チーフアドバイザーの最後の合同調整委員会となりました。最後の挨拶では、山下チーフから、モンゴルのより良い社会保険の政策づくりに関わったことを誇りに思っていること、日本に帰ってもモンゴルの社会保険分野の発展を心から祈っており、今後も注目し続けたい旨、話がありました。



モンゴル局長と山下チーフ

## 地方会計担当者への研修会



研修の様子

6月8日、ADBが主催する会計研修会において、SINRAI プロジェクトも協力し、地方の社会保険事務所の会計担当職員約90名に対して、会計の取扱いについて説明しました。

会計の本質的な機能として内部統制と外部表示があること、支店と本店の間での会計の統一ルール必要性、賃金上昇や物価上昇を現在価値に戻して考える方法について会場と一緒に勉強しました。後半は、モンゴルにも年金特別会計を設ける必要性を伝え、そのための組織体制についてプロジェクトより提案しました。

おかげさまで、終始活発的な研修会になりました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。



職員による発表

## 連載：草原の国の社会保障（第 25 話） “ユニバーサルサービス”

皆さま、こんにちは。現代の社会で生きる私たちにとって、無くてはならない「社会保障」。今回は、誰もが利用しやすいモンゴルの社会保険サービスについてお伝えします。

皆さんは、利き腕を骨折して、いつもと違う側の手で書類を書いたことはありませんか。また、足をケガして松葉づえで歩いたことはありませんか。いつもであれば、それほど時間がかからないことが、ケガをすることで時間がかかったり、大変になったりしますよね。そういう時、誰かのサポートが欲しいと思うのではないのでしょうか。ケガをしなければ気付かないことが、ケガをすることで、気づくこともあるでしょう。

ところで、障害年金や老齢年金を取り扱う社会保険事務所は、障害を持つ者や高齢者が多く利用します。車いすを利用している者であったり、視覚や聴覚に障害をもっていたりする者であったり、誰もが利用しやすいような施設であって欲しいですね。

そこで、モンゴル社会保険庁では、「ウランバートル市における障害者の社会参加促進（DPUB）プロジェクト」の協力を得て、ウランバートル市内の各区社会保険事務所のアクセシビリティチェックを行っています。社会保険事務所の設備や職員の対応について、障害を持つ当事者自身の目で指摘してもらい、自分たちの提供しているサービスが、こうした方々に届いているかどうか確認しているのです。例えば、車いすでも入れるように設置したスロープの傾斜が急なため、車いすを利用している者が自分で昇ることができないことも、実際に利用する車いすの利用者の指摘で判明したのです。

おかげさまで、バガノール区、ハンオール区、ソングノハイルハン区そしてチンゲルテイ区の家社会保険事務所では、障害を持つ当事者自身によるアクセシビリティチェックが行われました。そして、指摘を基に職員自ら改善に取り組んでいます。

多くの高齢者や障害を持つ者が利用する社会保険事務所だからこそ、利用する方々の視点で改善に取り組んでいくことが大変重要です。

JICA チーフアドバイザー 山下 護

## 職員向けの研修を充実させるためには？



職員同士協議している様子

モンゴル社会保険庁とウランバートル市内の家社会保険事務所の研修担当者と IT 担当者が中心となり、研修制度の改善について協議をしまし

た。現在の研修制度での改善すべき点を把握すべく、今までの業務経験から必要と感じた研修について各自発表を行いました。

他には、OJT（On the job training）、実際の業務を通して行う教育訓練や、日本年金機構等の通信研修の事例について学びました。



OJT のロールレィの様子

## ボディゲレル職員の帰国

国立社会保障・人口問題研究所で一か月間、客員研究員として研究生活を送っているボディゲレルさんの最終発表会が 6 月 20 日行われました。



研究最終発表の様子

ボディゲレルさんへの研究指導をしていただきました、社会保障基礎理論研究部の山本部長、佐藤室長、情報調査分析部の小島部長、別府室長、並びに、人口構造研究部主任研究官の大泉様はじめ、国立社会保障・人口問題研究所の皆様、誠にありがとうございました。また、モンゴル社会保険庁の職員の受入れにご尽力いただきました国際関係部長の林様、誠にありがとうございます。



JICA で修了証書とともに記念撮影

## SINRAI プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所：Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160, モンゴル社会保険庁内  
6 階 602 号室 電話(FAX) 番号：(+976)-11-325125

公式 Facebook アカウント：Жайка Нийгмийн Даатгалын төсөл  
ニュースレターのバックナンバーはこちらから

<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>

